

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者：70代 男性 要介護2

病 名：脳梗塞、心房細動、高脂血症、
高尿酸血症、B型肝炎、逆流性食道炎

経 過：

2021年12月に3度目の脳梗塞で入院、翌年2月に自宅退院。今回の脳梗塞再発により、嚥下と言語機能に障害が生じました。特に食形態の配慮が必要になりましたので、訪問で言語聴覚士（ST）による嚥下・構音障害の改善療法を行い、食事を安全に楽しめて、会話もスムーズに行えるようになりました。改善が見込めたことで、新たな目標が見い出せました。

内 容

2021年12月、脳梗塞を再発し大学病院入院。急性期後、構音障害、嚥下障害が残存しておりましたので、翌年1月リハビリ目的で転入院。2月嚥下造影検査施行。むせこみと誤嚥の危険性高く、退院後の食形態は主食はゼリー粥、おかずはミキサー食でした。ご家族早期退院希望あり、2月上旬退院となりました。

介入当初、脳梗塞後遺症による高次脳機能障害（注意障害、記憶障害、遂行機能障害）を認めましたが、ご家族やSTとのやり取りは問題無く可能でした。歩行は左不全片麻痺はありますが室内T字杖自立。入浴と更衣に部分介助は必要でしたが、他のADLは概ね自立レベルでした。食事でのむせこみや誤嚥の危険性と会話での言葉の出にくさが残存したため、改善を目的に摂食嚥下・言語療法が開始となりました。ご本人からは「ゼリー粥とかじゃなくて、おいしいご飯を食べたい。外食もできるようになりた。」とコメントが聞かれました。

嚥下機能においては、左口角下垂あり、会話中には流涎を認めました。舌は著明な麻痺はなく、軟口蓋挙上は左方に若干の低下ありました。

3回の脳梗塞による偽性球麻痺と推測。筋力・感覚低下、姿勢の影響により咽頭残留も認めました。また、構音障害はときどきわからない語がある程度でした。

再発防止の教育、食形態等の情報提供、嚥下療法を行い、食形態においては一品ずつ段階的に向上していくよう、ご家族指導をしていきました。

介入後、約1ヵ月程度で、主食のゼリー粥は軟飯に、おかずはミキサー食は軟食1口大に、水分は濃いトロミは薄いトロミに、パン禁がパンが可能になりました。

食形態と嚥下機能が改善してきたことで、ご本人の体力も向上したので、けやきの通所リハビリも開始することができました。「これからも、けやきさんのお世話になりながら、早く元気になって、2年後のホノルルでマラソンコースをジョギングしたいです。」とコメントされております。

今回の介入で、ご本人とご家族も前向きになれるようになりましたのでキラキラ介護賞に値すると思ひ推薦させて頂きました。